

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

# 道



~令和4年秋号~



京都・瑠璃光院の紅葉

# 『道』

この道を行けば  
どうなるものか  
危ぶむ無かれ  
危ぶめば道はなし  
踏み出せば  
その一足が道となり  
その一足が道となる  
迷わず行けよ  
行けばわかるさ

## ～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。



# 内科学第四医局員・学内同門名簿

(2022年12月現在)

## ◆ 内科学第四

田邊 一明 (医学部附属病院副院長、教授・循環器内科診療科長)

## ◆ 循環器内科

遠藤 昭博 (准教授・副診療科長)

渡邊 伸英 (助教・医局長)

佐藤 寛大 (助教)

大内 武 (助教・外来医長)

香川 雄三 (助教・病棟医長)

山口 一人 (助教)

公受 伸之 (医員)

川原 洋 (医員)

大嶋 文史 (医員)

森田 祐介 (医員)

山崎 誠太 (医員)

川波 由佳 (医員)

河野 由依 (医員)

(学外)

浅沼 俊彦 (島根大学客員教授)

岡田 大司 (神戸市立医療センター中央市民病院)

中村 琢 (松江市立病院)

松田 紘治 (松江市立病院)

岡崎 浩一 (済生会江津総合病院)

黒田 紘章 (益田赤十字病院)

山口 直人 (松江市立病院)

三浦 重禎 (浜田医療センター)

安田 優 (札幌心臓血管クリニック)

坂本 考弘 (国立循環器病研究センター)

石倉 正大 (神戸市立医療センター中央市民病院)

古志野海人 (益田赤十字病院)

吉岡さゆり (心臓血管研究所付属病院)

田邊 淳也 (大阪大学)

山口まどか (島根県立中央病院)

佐々木拓志 (済生会江津総合病院)

村上 慧 (島根県立中央病院)

## ◆ 留学生

Haque Rakibul (バングラディシュ)

Rasel Miah (バングラディシュ)

## ◆ 腎臓内科

伊藤 孝史 (ワーキング・イノベーションセンター准教授、診療科長)

江川 雅博 (助教)

福永 昇平 (助教)

芦村 龍一 (医員)

園田 裕隆 (医員)

星野 祐輝 (医員)

糸賀 健一 (医員)

(学外)

松井 浩輔 (出雲市民病院)

岡 朋大 (平成記念病院)

花田 健 (松江赤十字病院)

花田 昌也 (花田クリニック)

中西 宣太 (のぐち内科クリニック)

吉金かおり (おおつかクリニック)

岩下 裕 (浜田医療センター)

加藤 志帆 (益田赤十字病院)

山内明日香 (近江八幡市立総合医療センター)

岩下 裕子 (浜田医療センター)

佐藤 陽隆 (島根県立中央病院)

高瀬健太郎 (島根県立中央病院)

川西未波留 (浜田医療センター)

大庭 雅史 (松江赤十字病院)

亀井 史佳 (松江赤十字病院)

## ◆ 内科学第四資料室

影山久美子

武田 瞳

大國 視子

佐藤詩絵理

## ◆ 総合医療学講座

高橋 伸幸 (教授・大田総合医育成センター)

## ◆ 検査部

吉富 裕之 (助教)

## ◆ 救命救急センター

小谷 暢啓 (講師)





2022年10月に心不全学会で奈良を訪れました

皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2022年春以来、大学関連でご心配をおかけするニュースが続きました。私たちはアカデミアの役割、医療人として医療安全や地域医療に尽くす役割、教育者として医師を養成する役割を担っています。アンプロフェッショナルな言動や行動に厳しく対応してまいります。今後ともご指導よろしく申し上げます。

2022年春号以降どんなイベントがあったのか思い出せないくらい時間が過ぎるのが早くなります。1年という時間の感覚は年齢で変わり、5歳の子の1年は1/5、60歳の1年は1/60と年齢と反比例するというジャンネーの法則があります。どおりで年々短く感じます。日記を見返しますと、2022年6月には心リハ学会で人生初の沖縄、7月は動脈硬化学会で久留米、8月は札幌心臓血管クリニック訪問、9月は心臓病学会で京都、10月は心不全学会で奈良、11月は日循地方会で山口、12月は心臓弁膜症学会で宮崎と国内出張は新しい時代に移りました。循環器内科の新人を対象とした神戸大学感染症内科での研修も再開させていただくことができ、明けて2023年1月には海外研修としてエコー・ハワイへの派遣も行います。一方、学会関連の会議がオンラインになったのは地方人には有難いことです。理事会や委員会が2回/週開催されることもありますが、会議が東京集合ならほとんど大学にいないということがあったのではないかと新しい時代の恩恵を感じます。循環器内科ではMitraClipの実施のための準備も本格化しました。2022年

末にはサッカーが盛り上がりましたが、医療人として大人数での飲食はまだできず、2023年が「ブラボー」と叫べる年になることを願っています。

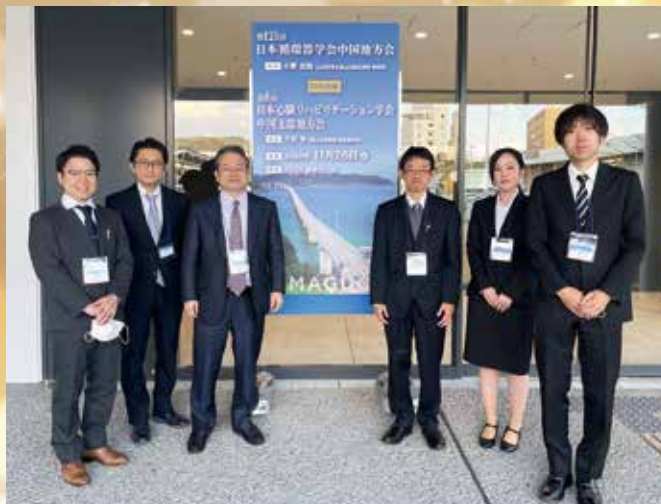
さて、今年度から島根県医師会の大学代表の理事を拝命し、医師会報に順番で掲載する「袖師漫言」というコーナーの1月号を担当することとなりました。そこで書いた漫言「サッカー・ワールドカップ」を流用します。4年に一度の思いを綴りました。

2023年1月を迎えます。皆様、よい年をお迎えのことと思います。22年末にカタールで開催されたワールドカップ(W杯)は日本が予選リーグでドイツ、スペインに勝つという「ドーハの歓喜」を体験させてもらいました。私がサッカーを始めたのは中学からですが、中学時代は仲間に恵まれ、3年生時に全国中学選手権に出場することができました。出場選手には後の日本代表となる選手もあり、以来、同学年が活躍する日本代表を応援してきました。世界に同学年はアルゼンチンのディエゴ・マラドーナ選手がいました。中学2年生の74年西ドイツW杯が初めて映像で見る世界のサッカーで、オランダのヨハン・クライフ選手に衝撃を受けました。W杯総集編をNHKで放映すると楽しみにしておりましたら、番組がローカルの国体水泳島根県予選に変わってひどく落胆したのを覚えています。サッカーの注目度の低い時代でした。78年アルゼンチンW杯は高校3年生の夏で、決勝は夜中の衛星中継でアルゼンチ



2022年10月 MitraClipの準備が本格化しました

ンの優勝を見届けました。日本はアジア一次予選敗退で、当時の日本はW杯よりもオリンピックを優先する時代でした。医学生時代はサッカー部でサッカー中心の日々を送っておりました。82年スペインW杯は放映された試合や総集編をビデオ録画し、仲間と擦り切れるほど見返しました。日本はW杯には遠く、プロ化が望まれていました。学生時代は出雲から寝台特急に乗って国立競技場に日本代表を応援に行きましたが、クラブチームでやってきたクライフ選手やマラドーナ選手を直接見ることができました。86年メキシコW杯は医師になって2年目でした。日本が初めてアジア最終予選まで行き、その時代がいずれ来る、と予感させてくれました。90年イタリアW杯のアジア予選は一次予選敗退。プロ化が動き出し、91年にJリーグ設立、93年開幕を迎えます。そのタイミングが94年アメリカW杯のアジア予選、「ドーハの悲劇」でした。日本はこれから強くなると信じて4年を過ごしました。そして98年フ



2022年11月日本循環器学会中国地方会（山口市）

ランスW杯は「ジョホールバルの歓喜」で日本はW杯初出場。アメリカ留学中で予選の放映は見られませんので、イランとのプレーオフは弟に国際電話で経過を伝えてもらいました。延長の岡野選手のゴールがどんなゴールかわかりませんでした。「やったー」という弟の言葉に涙が溢れました。フランスW杯の試合はアメリカでも中継があり、予選リーグ3敗でしたが、壁を超えた世界が見えた気がしました。02年が日韓W杯で決勝トーナメントのブラジル対ベルギー戦を神戸でW杯としては初めて生で観戦できました。06年ドイツ、10年南アフリカ、14年ブラジル、18年ロシア、22年カタールとアジアの出場枠が増えたことありますが、日本のW杯出場は当たり前になり、全試合が中継で観戦できる時代になりました。できることなら次の4年を生き延びて、カナダ、アメリカ、メキシコで開催予定のW杯でまたワクワクしたいと願っています。

## 医局報～秋号～に寄せて

腎臓内科 診療科長・診療教授 / ワーキング・イノベーションセンター 准教授・センター長 / 血液浄化治療部長  
伊藤 孝史

令和4年度上半期も新型コロナウイルス感染症に振り回され、やっと第7波が落ち着いてきたと思ったら、第8波が押し寄せ、さらにはインフルエンザも流行するとのことで、気の休まる時がありません。早く落ち着いて、またみなさんとお目にかかる日がくることを願うばかりです。

令和4年度上半期の腎臓内科の活動報告をさせていただきます。

令和2年度鳥根大学卒業の糸賀健一先生が入局し、2年連続で入局者があり腎臓内科も勢いを増しています。昨年

度の亀井史佳先生同様、松江赤十字病院で2年間初期研修をしてからの腎臓内科選択です。

鳥根大学内の業務としては、腎炎に対する腎生検等は従来通りで、バスキュラーアクセスの造設やシャントPTAの入院も順調に伸びています。血液浄化治療部業務や腎移植医療は、泌尿器科と連携し進めています。

学生教育に関しては、徐々に病棟・外来実習も対面形式で行えるようになってきており、また腎臓内科の楽しさや我々の熱い気持ちを伝えられるようになってきました。





バスキュラーアクセス手術

学会活動では、第38回日本医工学治療学会は5/14-15に道後山の手ホテルを会場に現地開催で1演題、第65回日本腎臓学会学術総会は6/10-12に神戸国際会議場を会場にハイブリッド開催で2演題、第67回日本透析医学会学術集会・総会は7/1-3にパシフィコ横浜を会場にハイブリッド開催で5演題、第43回日本アフェレス学会学術大会は11/11-12にホ

テル日航金沢を会場にハイブリッド開催で1演題、第52回日本腎臓学会西部学術大会は11/18-19に熊本城ホールを会場にハイブリッド開催で3演題、第28回日本腹膜透析医学会は岡山コンベンションセンターを会場にハイブリッド開催で1演題、第34回日本老年医学会中国地方会は12/11に米子コンベンションセンターを会場に現地開催で1演題、第31回中国腎不全研究会は12/18に広島国際会議場を会場に現地開催で5演題発表しました。コロナ禍ではありますが、今後も積極的に学会発表をしていきたいと考えています。

CKD啓発活動では、毎年秋に行っている市民公開講座慢性腎臓病（CKD）対策は今年度も開催することができませんでした。今後は徐々にCKDの普及啓発、診療連携体制の構築を進めていかなければならないと考えています。

島根大学医学部附属病院では、腎臓内科の教授選考が行われ、令和5年1月から神田武志先生（慶應大学1997年卒）が教授として赴任されますので、よろしくお願い申し上げます。今後も山陰での腎臓病診療を支え、そして全国、世界に発信できる仕事ができるように頑張っていく所存ですので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



## 新入医局員 挨拶

循環器内科  
公受 伸之



同門の皆さん、ご無沙汰しています。5期生の公受です。令和4年7月より島根大学医学部附属病院に勤務することとなりました。60歳の定年を迎え今後の身の振り方を思案していたところ、田邊先生から「学生教育をしてみないか」と声をかけていただきました。「今更、何を大学ですか」との思いもありましたが、丁度私の高校の友人（医師でない）が定年後に地元の大学で後進の育成に携わることにしたとの連絡も刺激となり、これも縁かと思うに至りました。13年ぶりの医局での生活は非常に刺激的で、大学ならではの多彩な疾患やTAVIを始めとする最先端の循環器治療（MitraClipに向けても準備中）、そしてアグレッシブ

な医局員の仕事ぶりに触れる毎日です。

私の仕事としては3つのことになります。まず一つ目は学生教育、特にBedside Teachingです。2010年、アメリカの「外国医学部卒業生のための教育委員会」は外国の医学部卒業生が2023年以降にアメリカで医療行為を行う申請要件として、母校が国際基準に沿った医学教育分野別評価で適格認定されていることを提示しました。つまり認定大学医学部の卒業生にのみ米国医師国家試験の受験資格が与えられるのです。これを受け日本医学教育評価機構が設置され、2017年に各大学の評価が行われました。その結果、これまでの座学や見学中心の臨床実習から診療参加型実習への転換が提言されました。新型コロナウイルスの広がりにより学生は教育機会を大きく損なうこととなっている中、重要な仕事であろうと理解しています。特に循環器病学からみて重要な問診・理学所見・思考過程を学べる患者をピックアップし、毎日1時間程度のミニ回診を行い学生に考え

させることを目標にしています。

二つ目は、これまで取り組んでいたオスラー病外来を継続することです。最近では紹介患者が乏しく、改めて住民対象にいろいろなメディアを通じて啓発活動を強化しています。早期発見と治療が極めて重要な疾患であり、希少疾患の専門医が少ない中、大学病院にいる限りは継続すべきと考えています。

三つ目は個人的な興味ですが、漢方についての知識と経験を深めたいと思っています。医師として漢方の世界を知らずして終われないという不思議な魅力を感じています。田邊先生のご配慮もあり、2022年8月～10月千葉大学和漢診療学講座で研修を行うことができました。全国的にも大学病院や大病院に漢方外来・センターが増加しており、潜在的ニーズは大きいものと思います。12月からは大学病院漢方外来にも参加することとなりました。今後ともよろしく願いいたします。

## 神戸大学感染症内科研修報告

循環器内科  
川波 由佳



2022年8月に1ヶ月間、神戸大学感染症内科で研修させていただきましたので報告します。毎朝の出勤は、暑い中、坂道を上がる場所から始まります。出身は福岡ですが、身体はすっかり島根に馴染み、神戸の夏の日差しは応えました。

他科からコンサルトを受け、フェローに指導を仰ぎながら診察や治療方針の検討を行い、毎日カンファレンスで症例を提示し、上級医からの指導を通じて感染症診療の考え方を勉強させていただきました。的確でスピード感のあるカンファレンスが印象的で日々刺激的でした。治療対象が生物であるためか、治療の反応や方法も症例によって違いが大きく、普段の内科診療よりも先が予想しにくい印象でした。感染症診療においては、日々の変化を細かく捉え、逐一対応していく姿勢が大事だと感じました。また、検査

や診察からとらえた変化に対して、それが感染症によるものなのかの判断ができることが必要で、そのためには、感染症以外にも薬や内科疾患を広く理解している必要があると感じました。この1ヶ月間の研修では、感染症診療の基本だけでなく一般内科としても色々勉強させていただき、学んだことを今後の診療でも意識していこうと思います。

感染症内科の先生方は個性にあふれ、優しく、丁寧に指導していただきました。それぞれ多彩な趣味をお持ちで、空き時間には御飯がおいしいところ、景色がきれいなところはもちろん、有名な神社、きれいな粘菌など教えていただき、休日にはそれらを巡って楽しむことができました。粘菌、あまり知らなかったのですが、見ていて飽きない美しさがあり、はまりそうです。これまで関西にはあまり縁がありませんでしたが、神戸は様々な異文化が混ざり合いながらも上品な雰囲気が印象的で、バランスの良い住みやすい土地だと感じました。

Covid19感染症の流行でお忙しい中、勉強させていただく機会をいただき、田邊先生、岩田先生、神戸大学感染症内科の先生方や事務の方々に感謝しております。ありがとうございました。





# 業績

## 論文・著書・総説 (2022年春号以降掲載、掲載決定分)

1. Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Takeda A, Uchida S, Tsukamoto T, Tsuruya K, Akai Y, Nitta K, Fukunaga M, Hayashi H, Masutani K, Wada T, Konta T, Katafuchi R, Nishio S, Goto S, Tamai H, Shirasaki A, Shoji T, Nagai K, Nishino T, Yamagata K, Kazama JJ, Hiromura K, Yasuda H, Mizutani M, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Sobajima H, Saka Y, Ishimura E, Ichikawa D, Shigematsu T, Sofue T, Fujimoto S, Ito T, Sato H, Narita I, Isaka Y; JNSCS Investigators. Predictors of early remission of proteinuria in adult patients with minimal change disease: a retrospective cohort study. *Sci Rep.* 2022 Jun 13;12(1):9782
2. Mase K, Saito C, Usui J, Arimura Y, Nitta K, Wada T, Makino H, Muso E, Hirawa N, Kobayashi M, Yumura W, Fujimoto S, Nakagawa N, Ito T, Yuzawa Y, Matsuo S, Yamagata K. The efficacy and safety of mizoribine for maintenance therapy in patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated vasculitis: the usefulness of serum mizoribine monitoring. *Clin Exp Nephrol.* 2022 Jul 30
3. Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Takeda A, Uchida S, Tsukamoto T, Tsuruya K, Akai Y, Nitta K, Fukunaga M, Hayashi H, Shoji T, Masutani K, Konta T, Katafuchi R, Nishio S, Wada T, Goto S, Tamai H, Shirasaki A, Nagai K, Nishino T, Yamagata K, Kazama JJ, Hiromura K, Yasuda H, Sofue T, Fujimoto S, Mizutani M, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Sobajima H, Saka Y, Ishimura E, Ito T, Ichikawa D, Shigematsu T, Sato H, Narita I, Yoshitaka I; Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study investigators. Acute kidney injury and remission of proteinuria in minimal change disease. *Kidney Int Rep.* 2022 Aug 5;7(10):2283-2288
4. Shimojima Y, Kishida D, Ichikawa T, Kida T, Yajima N, Omura S, Nakagomi D, Abe Y, Kadoya M, Takizawa N, Nomura A, Kukida Y, Kondo N, Yamano Y, Yanagida T, Endo K, Hirata S, Matsui K, Takeuchi T, Ichinose K, Kato M, Yanai R, Matsuo Y, Nishioka R, Okazaki R, Takata T, Ito T, Moriyama M, Takatani A, Miyawaki Y, Ito-Ihara T, Kawaguchi T, Kawahito Y, Sekijima Y. Hypertrophic pachymeningitis in ANCA-associated vasculitis: a cross-sectional and multi-institutional study in Japan (J-CANVAS). *Arthritis Res Ther.* 2022 Aug 23;24(1):204
5. Kawahara H, Endo A, Yanaguchi K, Yoshitomi H, Tanabe K. Myocarditis after the third dose of mRNA-1273 Coronavirus disease 2019 (COVID-19) vaccine. *Circ Rep* 2022;4(8):388-389
6. Morita Y, Morita J, Kondo Y, Tanabe K. Occurrence of Torsade de Pointes prior to complete lead connection during pacemaker implantation. *Indian Pacing Electrophysiol J.* 2022 Sep-Oct;22(5):254-257
7. Kawahara H, Endo A, Suehiro S, Tanabe K. Successful transcatheter aortic valve replacement approached via a simultaneously implanted Y-graft vascular prosthesis. *Cardiovasc Revasc Med* 2022 (online June 10)
8. Kawahara H, Watanabe N, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Subacute stent thrombosis with spontaneously resolved secondary thrombi in paroxysmal nocturnal hemoglobinuria: a case report. *BMC Cardiovascular Disorders* 2022;22:408
9. Ohte N, Ishizu T, Izumi C, Ito H, Iwanaga S, Okura H, Otsuji Y, Sakata Y, Shibata T, Shinke T, Seo Y, Daimon M, Takeuchi M, Tanabe K, Nakatani S, Nii M, Nishigami K, Hozumi T, Yasukochi S, Yamada H, Yamamoto K, Izumo M, Inoue K, Iwano H, Okada A, Kataoka A, Kaji S, Kusunose K, Goda A, Takeda Y, Tanaka H, Dohi K, Hamaguchi H, Fukuta H, Yamada S, Watanabe N, Akaishi M, Akasaka T, Kimura T, Kosuge M, Masuyama T, on behalf of the Japanese Circulation Society Joint Working Group. JCS 2021 Guideline on the Clinical Application of Echocardiography. *Circ J* 2022;86:2045-2119
10. Kimura T, Yamamoto R, Yoshino M, Sakate R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Nagai K, Yamagata K, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Nishino T, Sobajima H, Akahori T, Ito T, Terada Y, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Kitagawa K, Fujita Y, Mizutani M, Kashihara N, Sato H, Narita I, Isaka Y. Deep learning analysis of clinical course of primary nephrotic syndrome: Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clin Exp Nephrol.* 2022 Dec;26(12):1170-1179
11. Kawanishi M, Kamei F, Sonoda H, Oba M, Fukunaga S, Egawa M, Koyama T, Sato Y, Tanabe K, Ito T. Utility of renal biopsy in differentiating idiopathic multicentric Castleman disease from IgG4-related disease. *CEN Case Rep.* 2022 Nov 21
12. Tanabe J, Watanabe N, Ito M, Kanasaki K, Tanabe K. Differentiating immune-related adrenal insufficiency from low cardiac output syndrome: a case report. *Cureus* 2022;14:e31349

## 学会・研究会発表 (2022年春号以降)

1. 伊藤孝史. アフェレシス療法における最新の話題～アフェレシス診療ガイドライン2021を中心に～. 第38回日本医工学治療学会. 2022.5.14-15、松山
2. 江川雅博、亀井史佳、園田裕隆、大庭雅史、川西未波留、福永昇平、伊藤孝史. 保存期CKD検査教育入院による食塩味覚感受性改善と体重減少効果. 第65回日本腎臓学会学術総会. 2022.6.10-12、神戸
3. 岡田浩一、徳永 紳、豊泉夏紀、伊藤孝史、柏原直樹. 一般市民における慢性腎臓病 (CKD) の認知度に関するアンケート調査2021年度. 第65回日本腎臓学会学術総会. 2022.6.10-12、神戸



4. 平川晋也、花房規男、石森 勇、和田篤志、大久保淳、岩本ひとみ、中永士師明、佐藤元美、太田秀一、清島真理子、横山陽子、伊藤孝史、草生真規雄、王子 聡、村上 淳、土谷 健、斯波真理子、山路 健、松尾秀徳. アフェレシスレジストリについて：登録システムの開発と運用. 第67回日本透析医学会学術集会・総会. 2022.7.1-3、横浜
5. 福永昇平、江川雅博、塩野 学、伊藤孝史. 経口カルシウム受容体作動薬から静注薬へ切り替え後長期間の安全性と有効性の検討. 第65回日本腎臓学会学術総会. 2022.6.10-12、神戸
6. 香川雄三、遠藤昭博、川原 洋、安田 優、坂本考弘、田邊一明. 適正な抗血栓療法下におけるステント血栓症の2症例. 第30回日本心血管インターベンション治療学会. 2022.7.21-23、横浜
7. 森田祐介、鹿島由史、八戸大輔、辻本誠長、堀田 怜、松名伸記、原口拓也、土反英昌、渡邊智彦、只野雄飛、杉江多久郎、金子海彦、竹内 剛、小林 健、菅野大太郎、佐藤勝彦、田邊一明、藤田 勉. ステントjailした側枝閉塞に対するSTARテクニック. 第30回日本心血管インターベンション治療学会. 2022.7.21-23、横浜
8. 遠藤昭博. 島根県における急性冠症候群診療の現状と課題. 第30回日本心血管インターベンション治療学会. 2022.7.21-23、横浜
9. 伊藤孝史. 笑いの効用. 全国保健管理研究会中国四国地方部会. 2022.8.25、松江
10. 川波由佳、河野由依、山崎誠太、坂本考弘、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. ダサチニブによる可逆性の左室収縮能低下を来した一例. 第5回日本腫瘍循環器学会. 2022.9.17-18
11. 坂本考弘、田邊一明. 肺高血圧に活かす. シンポジウム4・運動負荷心エコーの実践的アプローチ. 第70回日本心臓病学会学術集会. 2022.9.23-25、京都
12. 遠藤昭博、森田祐介、川原 洋、香川雄三、川波由佳、坂本考弘、大嶋丈史、大内 武、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、田邊一明. 冠動脈疾患の二次予防におけるリスク分類に基づいたLDLコレステロール管理の有用性の検討. 第70回日本心臓病学会学術集会. 2022.9.23-25、京都
13. 坂本考弘、森田祐介、川原 洋、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 超音波エラストグラフィ法による甲状腺うっ血評価. 第70回日本心臓病学会学術集会. 2022.9.23-25、京都
14. 森田祐介、森田純次、北井敬之、藤田 勉. 田邊一明. ペースメーカ植え込み術中に生じたTorsade de pointesの1例. 第70回日本心臓病学会学術集会. 2022.9.23-25、京都
15. 川波由佳、河野由依、山崎誠太、坂本考弘、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 全身性強皮症に合併した心外膜炎に対してステロイド投与が有効であった一例. 第70回日本心臓病学会学術集会. 2022.9.23-25、京都
16. <優秀ポスター賞>Tanabe J, Okazaki K, Maeda A, Kado T, Odawara M, Ueda A, Hondou Y, Akazawa Y, Nakamoto K, Sera F, Mizote I, Ohtani T, Sakata Y, Tanabe K, Nakazawa Y. The effectiveness of guideline-directed medical therapy for patients with HFREF in a super-aging society. 第26回日本心不全学会学術集会. 2022.10.21-23、奈良市
17. 福永昇平、亀井史佳、園田裕隆、大庭雅史、川西未波留、江川雅博、伊藤孝史. 腹水濾過濃縮再静注後の発熱や副作用は腹水性状や原疾患と関連しない. 第43回日本アフェレシス学会学術大会. 2022.11.11-12、金沢
18. 伊藤孝史. 慢性腎臓病（CKD）対策における地域医療連携体制の現状と課題. 第52回日本腎臓学会西部学術大会. 2022.11.18-19、熊本
19. 福永昇平、糸賀健一、園田裕隆、星野祐輝、芦村龍一、江川雅博、伊藤孝史. 高カルシウム血症、腎機能障害を契機に発見された腫瘍型筋サルコイドーシスの1例. 第52回日本腎臓学会西部学術大会. 2022.11.18-19、熊本
20. 園田裕隆、亀井史佳、大庭雅史、川西未波留、福永昇平、江川雅博、磯部 威、伊藤孝史. ニンテダニブ誘発性微小血管障害によるネフローゼ症候群の1例. 第52回日本腎臓学会西部学術大会. 2022.11.18-19、熊本
21. 坂本考弘、内田利彦、遠藤昭博、田邊一明. 左室充満圧推定における肺エコーB-lineの臨床的意義. 第121回日本循環器学会中国地方会. 2022.11.26、山口
22. 河野由依、大内 武、吉富裕之、川波由佳、山崎誠太、山口一人、坂本考弘、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、公受伸之、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. ピロリン酸シンチグラフィで疑陽性となったミトコンドリア心筋症の一例. 第121回日本循環器学会中国地方会. 2022.11.26、山口
23. 園田裕隆、大庭雅史、星野祐輝、亀井史佳、川西未波留、福永昇平、江川雅博、伊藤孝史. Dermacoccus nishinomiyaensisによるPD関連腹膜炎の1例. 第28回日本腹膜透析医学会. 2022.11.26-27、岡山
24. 福永昇平、亀井史佳、大庭雅史、園田裕隆、川西未波留、江川雅博、伊藤孝史. 血液透析導入時にカテーテル感染症、敗血症を来した丘疹-紅皮症（太藤）の高齢男性. 第34回日本老年医学会中国地方会. 2022.12.11、米子
25. 川波由佳、河野由依、山崎誠太、坂本考弘、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、山口一人、公受伸之、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 高度弁輪石灰化を伴う重症僧帽弁狭窄症を合併した高度重症大動脈弁狭窄症に対し経カテーテル大動脈弁植え込み術を施行した一例. 第12回日本心臓弁膜症学会. 2022.12.16-17、宮崎
26. 坂本考弘、遠藤昭博、田邊一明、吉富裕之、内田利彦. 心不全患者における甲状腺エラストグラフィによる甲状腺うっ血評価. 第127回日本内科学会中国地方会. 2022.12.17
27. 江川雅博、亀井史佳、大庭雅史、園田裕隆、川西未波留、福永昇平、伊藤孝史. 上腕動脈仮性動脈瘤破裂から出血性ショックをきたした血液透析患者. 上腕動脈仮性動脈瘤破裂から出血性ショックをきたした血液透析患者. 第31回中国腎不全研究会. 2022.12.18、広島
28. 糸賀健一、園田裕隆、星野祐輝、芦村龍一、福永昇平、江川雅博、伊藤孝史. 日本紅斑熱に罹患し、血液透析導入に至った慢性腎臓病の高齢女性. 第31回中国腎不全研究会. 2022.12.18、広島

# 島根心・腎・血管研究会



2022年11月12日に島根心・腎・血管研究会を開催しました。昨年の全面オンラインから今年は出雲市民会館とオンラインのハイブリット開催となりました。会場と合わせて50名以上の参加で直接顔が見えないのは残念でしたが、つながりを感じることでできる時間でした。

一般演題は循環器内科の河野由依先生、腎臓内科の糸賀健一先生に発表していただきました。特別講演として若い研究者にスポットライトを当て、現在大阪大学循環器内科重症心不全・移植専攻医プログラムで研修中の田邊淳也先生、そして大阪大学で臨床研究に携わって来られた腎臓内科・芦村龍一先生に講演をしていただきました。田邊先生は2021年4月から1年間済生会江津総合病院に勤務し、江津心不全レジストリを立ち上げられました。そのデータ解析を中心に「超高齢心不全を考える～済生会江津総合病

院での心不全観察研究から学ぶ」の演題でガイドライン治療のエビデンスのない超高齢者の心不全診療に一石を投じました。短期間で多職種チームを作り、環境を整備されたことには感心させられました。

芦村先生からは「大阪大学での臨床研究の学び～慢性腎臓病の疫学研究を中心に」の演題で、大阪大学で取り組んだ3つの疫学研究をまとめられたデータについて教えていただき、さらには論文の読み方、そこから導き出される論文作成の“お作法”を教えていただきました。田邊先生、芦村先生お二人の講演からcutting edgeを生きる研究者の研ぎ澄まされた感性に触れることができました。これからそんな世界を歩く若い先生方には歩く先の目標であり、尖ったお二人の講演は前のめりになる、ワクワクする講演でした。





## 第70回 日本心臓病学会学術集会

2022年9月23日～25日京都市で開催されました。発表予定で京都に入った森田祐介先生が京都でコロナ陽性となり、そのまま京都で療養生活を送ることになるという気の毒な状況でした。そんなコロナ禍での現地開催でしたが、多くの参加者で学会は盛り上がりました。旧知の先生方と会うのも新鮮であり、思わずお互いに肩をたたいてうれしい再会がたくさんありました。演者の先生方は、自分のパソコンに向かって話すのと違って実際に登壇し、人前で話すことで「緊張した」という言葉が聞かれ、これからの名演者を育てていくうえで重要なことだと思いました。



## 第12回 日本心臓弁膜症学会

2022年12月16日、17日宮崎のシーガイアで開催されました。3年ぶりの現地開催で、一つの会場で心臓外科医と循環器内科医が熱く議論できる場が戻ってきました。

僧帽弁、大動脈弁、三尖弁の今の世界を知り、CTが切り拓く弁膜症の新しい画像の世界も見せてもらいました。「Barlow 症候群の病態に迫る」では私もコメンテーターとして参加させていただきました。壇上のソファに座って議論するのはヨーロッパスタイルだそうですが、名手たちに囲まれて幸せな時間でした。産業医科大学・尾辻豊先生の特別講演は僧帽弁逸脱とBarlow 症候群（尾辻先生はあえて弁尖・弁輪拡張症と言われます）の病態の違いに迫る科学的な考察で勉強になり、尾辻先生の集大成として感激しました。ポスター発表で参加した川波先生も一つの会場で繰り広げられる議論に新しい世界を発見したようです。尾辻先生と記念写真を撮る機会にも恵まれ、アットホームな学会のしかも現地開催の恩恵を得ました。一流のそばにいる機会が自分のレベルを上げてくれると思います。ポスターには獣医の先生方の発表もあり、小型犬には僧帽弁閉鎖不全症が多いそうで、人間と同じように形成術をされるそうで驚きでした。現地開催の学会はやっぱり素晴らしい。



# Echo Heart Izumo 2022を開催して

2022年11月5日、出雲大社が神在りの期間に14回目を迎えるEcho Heart Izumoを開催しました。3年連続オンラインの講義形式の開催となりましたが、大阪大学・坂田泰史教授、兵庫県立がんセンター・福田優子先生は発信会場の出雲ニューウェルシティに来ていただくことができ、生の講演の迫力はもちろんのこと、オンラインではできない周辺の情報交換をすることができました。浅沼俊彦先生、島根大学医学部小児科・安田謙二先生も合わせて4人の講師の先生方にお一人40分の講演時間でたっぷり講演していただきました。浅沼先生には「左室壁運動評価・左室収縮能評価の基本」、福田先生には「抗がん剤治療と心エコー検査」、安田先生には「成人先天性心疾患と心エコー検査のポイント」、坂田先生には「重症心不全におけるDestination therapy時代の心エコー検査」という学会でもそれぞれ一つのセッションができるような重要なテーマで知識を深めることができました。



## 同門会長挨拶

令和4年の年末を迎えて

佐藤内科クリニック 佐藤 秀俊



肌寒さが増してきた今日この頃ですが、同門会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。またこれから起こりうる新型コロナウイルス感染症第8波と季節型インフルエンザの同時流行の懸念で忙しくストレスが多く気が休まることのない日々をお過ごしのこととご察し致します。どうかご自愛くださいますようお願いいたします。

さて、令和4年11月12日には恒例の島根心腎血管研究会が対面とWEBでのハイブリッド方式で行われ、活発な質疑応答がありました。引き続き同門会総会も同様にハイブリッド方式で行い、多くの同門会の先生方にご参加いただきましたことを改めて感謝申し上げます。今年こそは同門会総会を完全対面式で行いたいと会場予約など準備しておりましたが、今回も果たせず大変残念でした。今後の感染状況が改善し、来年度の同門会総会が以前のように行

ことができるようになることを願ってやみません。

翌11月13日には少人数ではありましたが田邊杯ゴルフコンペが開催され、小ぶりだった雨はスタートとともに止み、表彰式が始まったとたんに暴風雨となるという雨雲を味方にしたような恵まれたコンペとなりました。ゴルフ幹事である井上副会長のご尽力の賜物と感謝し、併せて来年の田邊杯コンペが盛大に行われることを祈念しております。

令和5年の同門会総会の日程はまだ決まっておりませんが、詳細が決まり次第同門会の皆様にはご案内させていただきます。ご案内が届きましたら、多数の皆様のご参加をどうかよろしくお願い申し上げます。

これからも井上副会長とともに医局の発展のために微力ながら全力でサポートしていく所存です。今後とも皆様のご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



# 第26回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告

同門会ゴルフ幹事 井上 慎一



令和4年11月13日、第26回田邊杯ゴルフコンペがいつも大社カントリークラブで開催されました。直前での開催決定、また大雨の予報にも関わらず多くの先生方にご参加を頂きました。

前回は3年ぶりのゴルフに多くの先生がスコアメイクに苦労されていました。しかし、今回は強風の悪条件を感じさせないハイレベルの戦いとなりました。結果は、実力者の後藤泰利先生が81という素晴らしいスコアで優勝されました。ドラコンは森田祐介先生、井上、ニアピンは田邊一明先生、佐藤秀俊先生、佐藤寛大先生、古志野海人先生が獲得されました。11月に留学から戻られたばかりの佐藤寛大先生はブランクを感じさせない迫力のスイングに加え、コンペを大いに盛り上げて下さいました。



また、川波由佳先生は前回の168から一気に30打縮めるスコアを出し、その才能に皆が期待しているところです。ご参加の先生方、有意義で楽しい時間をありがとうございました。次回は令和5年6月11日(日)に開催予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	後藤 泰利	39	42	81	6	75
準優勝	井上 慎一	47	45	92	16.8	75.2
3位	古志野海人	51	59	110	32.4	77.6
4位	佐藤 秀俊	59	56	115	37.2	77.8
5位	佐藤 寛大	52	51	103	25.2	77.8
6位	森田 祐介	52	49	101	22.8	78.2
7位	田邊 一明	53	52	105	24	81
8位	波多野 淳	58	60	118	36	82
9位	川波 由佳	68	70	138	43.2	94.8

# 道



## 編集後記

私はこれまで神戸に行きつけの理髪店があり、行ける機会を見つけて行っていました（何も言わなくてもいつもの髪型になる）。しかしコロナ以降、散髪難民となってしまいました。2022年夏になり、移動の制限もなくなり、これを機会に新しい理容室を見つけようと探していますと、神戸三宮で「お席の正面には鏡がない」メンズ美容の言葉に惹かれ、予約をして行ってみました。若い人がおしゃれな髪型にするお店のようでしたが、ビル6階の窓から外の景色を眺めながら、自分がどんな髪型になっているのかわからないまま若い店員のハサミが軽やかに動いていきます。最後に大きな鏡の前に移動して「いかがでしょうか」と確認されるのですが、他人には変化もわからない、興味もないことながら、自然と心躍る気分になります。終わると飲み物を出してくれるスペースがあり、何気なく見ているとサインに「ヴィッセル！」とあるではないですか。「ヴィッセル神戸の選手たちが練習終わりに来てくれます」と店員。No.10 が大迫選手です。カタールにも「半端ない」大迫選手が必要だったのではないかと個人的には思います。さすがにインiesta選手は来ないそうです。心躍る瞬間を見つけていきましょう。

(田邊)



### 島根大学医学部内科学講座内科学第四

#### 循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: [https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal\\_med4/index.html](https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html)